50周年記念事業事務局　経営計画書（　総括表　）

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式区分	H24年度計画額（単位：千円）		H24年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職　員	臨時職員
1	町制施行50周年記念事業	B	7,494	0	1.0	1.0
合　　計						

■特記事項

事 業 別 経 営 計 画 書【B】

■基礎情報

<table>
<tr><td>所属名</td><td colspan="3">50 周年記念事業事務局</td><td>No.</td><td>1</td></tr>
<tr><td>事業名</td><td colspan="5">町制施行 50 周年記念事業</td></tr>
<tr><td rowspan="2">総合計画の体系</td><td>大分類</td><td>4</td><td colspan="3">人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する</td></tr>
<tr><td>小分類</td><td>1
2</td><td colspan="3">参画と協働のまちづくりの推進と住民自治の確立
地域に根付いた多様な住民活動等の促進</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">町制５０周年にあたり、記念事業の計画立案及び事業運営を４者（町民、まちづくり団体、企業、行政）の連携により、互いの絆を築き、育てて行くと共に、本町の５０年及び近年のまちづくり事業実績を後世に伝えることができるようにする。</td></tr>
<tr><td>事務内容</td><td colspan="3">・記念事業の企画立案
・５０周年及び記念事業の啓発活動
・記念事業の実施
・推進委員会の運営</td><td colspan="2">・50th プロジェクトチームとの連携
・４者間の連絡調整
・事業記録</td></tr>
<tr><td>現在における経過又は課題</td><td colspan="5">・記念事業の企画立案
・記念事業の推進体制の検討
・記念事業費の検討
・町民、まちづくり団体、企業をいかに巻き込むか
・ファシリテーターとして推進委員会、実行組織をいかに効率よく運営するか
・記念事業等をいかに後世に引き継いでいくか</td></tr>
<tr><td>平成 24 年度の目標又は改善策</td><td colspan="5">平成２４年が町制５０周年であることの周知が十分図られていないので、啓発に力を入れる一方、未だ記念事業の骨格、概要さえ決めることができていないが、行政主導ではなく、参画と協働の意識を基調とし、町民の手により慌てず着実に事業検討並びに実施をしていく。この検討及び運営を通し、４者の絆を作り太くし、明日のおおぐちのまちづくりにつなげて行く。</td></tr>
</table>

■作業工程（平成２４年度）

月	作　業　内　容
4	記念式典並びにＨＡＰＰＹ　バースデイ！　おおぐち事業の実施 記念事業の企画立案 当初予算化した記念事業の広報並びに実施運営 記念事業の記録取り 具体化できた記念事業から補正予算要求 秋に開催予定の表彰式典表彰者の検討 表彰式典の開催 記念事業のまとめ

□3 年間の目標

目標	・５０周年記念事業の記録を残す ・５０周年を機に検討及び取り組みを始めた事業等の検討及び事業の継続 ・町史の続編(改訂版)発行に向けた検討及び事務の継続

項　目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標

□２年後、３年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	・ ・
H26 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円		0	7,494
（内特定財源）		千円		0	7,494
人工	職員	人工		2.0	1.0
	臨時職員	人工		0.0	1.0
	計	人工		2.0	2.0

■平成 24 年度計画特定財源内訳

（単位：千円）

特定財源名称	金　　額	備　考（充当先等）
合　　計		

■平成 24 年度計画額の主な増減

（新たな取組、臨時経費、廃止項目等）

（単位：千円）

項目（科目等）	計画額	増減額	内容
50 周年記念事業	7,494	皆増	50 周年記念事業推進委員会負担金　他

■特記事項

現在も、大口町町制施行５０周年記念事業推進委員会にて５０周年記念事業の検討を続けている。この委員会の運営について、時間を有効に使うと共に適切な検討ができるようサポートするべく事務局としての在り方、考え方、推進方法について常に考えながら、会議並びに事業を進めて行く。

また、町民、まちづくり団体、企業及び行政内部においても、善意の協力者に不快感や責められることがないよう配慮して進める。

■目標又は改善策に対する取組内容

平成２４年度が町制５０周年であることについては、記念事業の周知、その実施、結果報告等により次第に浸透していったと考えている。５０周年ブログの活用も図ってきた。

５０周年記念事業の検討、実施については、事業毎に部会を構成し少人数での検討により、効率的な行程を辿ったつもりであり、各委員とも努力をしてもらえたが、これまでの周年事業のように事前に概要等をお知らせするには至らなかった。しかし、その分危機感的心理が働いたのか、実施直前では心血を注ぐような検討、運営状況が続いた。各委員が一番心掛けたのは、「住民による手作り」。２０人の委員が１３の事業部会員として、一人当たり３～５の部会に入り、実施直前まで諦めずに、少しでも皆さんに喜んでいただける事業にしようと検討をしてもらえた。

また、５０周年事業の課題であった「継続性」についても、事業の検討段階のみならず事業終了後もその道筋をつけるべく、検討を重ねてもらえた。「協働」についても意識し、各事業で出来る限り連携できるよう検討をし、活動してきた。

事務局は、こうした委員の動き、熱意についていくのがやっとで、ファシリテーターとしての役割は果たせず、お手伝いしか出来ていない状況であった。

■評価

計画性という面では、評価には至らない状況であるが、「住民による手作り」、５０周年事業への「熱意」と「こだわり」を持って、各委員が精力的に取り組んでもらえた。会議の中で何度かぶつかったこともあるし、行政の対応、考え方を最後まで受け入れてもらえない、理解していただけないところもあったが、そこで止まることなく事業の実施に向け、前向きに検討、努力をしてもらえた。

「手作り」、「協働」、「継続」を意識しすぎた部分もあるかもしれないが、単独開催した事業は一つもなく、行政区、企業、まちづくり団体、議会、各種団体といろいろな関わりができたし、対行政ということでなく各団体間での新たな関わりも生まれた。委員個人としても、委員にならなければ会うことも、話すこともない人たちと共に、検討し、協力したことで、絆ができたのではなかろうか。

「継続」については、３事業が受けてくれる団体があったり、新たな団体が生まれたりして継続が約束されているし、２事業は継続に向けた検討をしていただけることとなり、他にも趣旨を引き継いでもらえる事業があるなどの方向性が出ており、今後の動きに注目していただきたい。

５０周年プロジェクトチームとの連携については、記念事業を進めるだけで手一杯でまちの語り部事業を一任してしまった。

全体として、派手さはなかったかもしれないが住民による手作り感溢れる、今の大口らしい周年事業を展開できた。温かく見守り、支えていただけたすべての皆さんに感謝したい。